



成隣だより

平成30年 2月 1日
第 10 号
昭島市立成隣小学校
校長 加賀田 真理

雪景色に思う～共助の心構え～

副校長 眞砂野 裕

先週はじめ、関東では4年ぶりとなる大雪が降りました。前日から交通網の混乱など、大人たちはその対応に四苦八苦でしたが、子供たちは大はしゃぎでした。本校でも、朝の時間帯には全校児童が雪遊びを楽しみました。

一方、早めに出勤できた教職員は手分けをして学校内外の通路を確保するため雪かきに従事しました。

そんな中、私たちがまだ手をつけていない歩道の雪がきれいにかきわけられていました。本校正面のバス停付近の歩道です。見事に一直線にかきわけられたその道は、何かとても清々しい景色でした。きっとどなたかが、このバス停を利用する方々のために深夜もしくは早朝から作られた道なのでしょう。そして、実際に多くの利用客が、この道のおかげで安心してバスを待っていました。



お顔も存じ上げないどなたかが、言葉も交わしたことの無い誰かのために作ったこの一本道は、確かに人々の役に立っていました。やがてその道筋は消え去り、利用した人々の記憶からも消えていくのかもしれませんが、そこには確かな「思い」がありました。誰かの役に立てるなら、お互いに助け合おう、という「共助」の思いです。この思いが、私たちの心に感謝と清々しさを残します。

もちろん、友達や家族のために何か親切な行動をすることは大切です。日常生活でもその機会は多く、実践している子供たちも大勢いることでしょう。その上で、さらに子供たちには「どこかの、誰かのために」行動できる力も身に付けてほしいと願います。その力は、これから子供たちがはばたく広い世界を少しずつ、よりよい世界に変えていく力でもあると思うのです。そして、この力の価値を子供に伝えるには実体験が一番です。私たち身近な大人が率先垂範する必要もあるでしょう。

またいつか雪が降った日、ぜひお子さんとそんな話をしてもらえたらうれしいです。雪景色が少し違って見えるかもしれません。